



2023年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年10月14日

上場会社名 株式会社東京衡機 上場取引所 東
 コード番号 7719 URL <https://www.tksnet.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石塚 智士
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理担当 (氏名) 石見 紀生 (TEL) 042-851-6027
 四半期報告書提出予定日 2022年10月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年2月期第2四半期の連結業績(2022年3月1日~2022年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年2月期第2四半期	1,465	—	74	△28.0	69	△30.9	43	△52.6
2022年2月期第2四半期	3,733	△9.2	103	△43.9	101	△43.6	92	△41.4

(注) 包括利益 2023年2月期第2四半期 43百万円(△52.3%) 2022年2月期第2四半期 91百万円(△41.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年2月期第2四半期	6.13	—
2022年2月期第2四半期	12.95	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2023年2月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。比較対象となる会計処理方法が異なるため、売上高の対前年同四半期増減率は記載しておりませんが、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は収益認識会計基準適用による影響が軽微であるため、対前年同四半期増減率を記載しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年2月期第2四半期	3,800	2,183	57.5
2022年2月期	4,400	2,139	48.6

(参考) 自己資本 2023年2月期第2四半期 2,183百万円 2022年2月期 2,139百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2023年2月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期	—	—	—	0.00	0.00
2023年2月期	—	—	—	—	—
2023年2月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年2月期の連結業績予想（2022年3月1日～2023年2月28日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,100	—	170	△37.0	155	△40.2	100	△17.7	14.02

(注) 1 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2 2023年2月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、上記の業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっております。比較対象となる会計処理方法が異なるため、売上高の前期の実績値に対する増減率は記載しておりませんが、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は収益認識会計基準適用による影響が軽微であるため、対前年同四半期増減率を記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規 一社（社名）— 、除外 一社（社名）—

(注) 特定子会社の異動には該当していませんが、当第2四半期連結会計期間において、株式会社東京衡機不動産を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年2月期2Q	7,133,791株	2022年2月期	7,133,791株
2023年2月期2Q	2,951株	2022年2月期	2,936株
2023年2月期2Q	7,130,840株	2022年2月期2Q	7,130,862株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については添付資料P. 4「（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	11
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	13
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を適用しております。このため、当第2四半期連結累計期間における経営成績に関する説明において、売上高につきましては、前年同期比増減率は記載しておりません。なお、営業利益以下の各利益につきましては、影響が軽微であるため、当該会計基準等を適用する前の数値を用いて当該増減率を記載しております。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

当第2四半期連結累計期間（2022年3月1日～2022年8月31日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、ワクチン接種の進展を背景に本年3月半ばには政府のまん延防止等重点措置が解除され、緩やかな経済活動再開の動きが見られ景気の持ち直しが期待される一方、新たな変異ウイルスの発生により感染が急激に再拡大する事態となり景気回復に水を差す状況となりました。また、本年2月に起きたロシアのウクライナ侵攻により顕在化した地政学的リスクの長期化の懸念や原材料・資源価格の高騰、サプライチェーンの混乱、世界的なインフレの加速と米国の金融引き締め、急激なドル高円安の進行等わが国経済を取り巻く世界情勢は厳しく、景気の先行きは依然として不透明な状況となっております。

このような状況の下、当社は、2023年3月20日に創業100周年を迎えることから、これを節目に新たなステージに進むことを目指して2022年度をスタートさせており、長引く新型コロナウイルス感染症まん延の影響や緊迫化する世界情勢など厳しい経営環境の中で、持続可能な豊かな社会の実現に貢献すべく、当社グループの活動と社会の抱える様々な課題との関わりを常に意識し、4期連続黒字を達成した前連結会計年度に引き続き、グループ一丸となって持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでおります。

当社グループの主力事業は当社創業以来の試験機事業であり、これとあわせて国際的な商取引に焦点を置いた商事事業と「ゆるみ止めナット」のエンジニアリング事業を展開し、ステークホルダーの皆様からの信頼を高めるべく、強固な収益基盤を確立していくことに注力しております。この3事業は産業の基盤と社会インフラの「安全・安心」を支え、人々の暮らしに豊かさを提供する事業であり、引き続き社会に必要不可欠な企業として存続していくために各事業の発展に取り組んでいきますが、グループとして更なる飛躍を目指して「新たな柱となる事業の開拓」を経営のコミットとして掲げている中で、近年活況を呈している不動産取引市場において新たなビジネスチャンスを掴むべく、本年7月に、新たに子会社を設立して既存の人材リソースやネットワークを活かして不動産売買の仲介を中心とした不動産事業を開始することを決定いたしました。

当第2四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症のまん延・再拡大の影響の中で、エンジニアリング事業については都市開発や公共工事関連を中心に売上が好調で順調に推移したものの、主力の試験機事業については、標準的な試験機の売上は比較的堅調であったものの、オーダーメイドの受注製品の売上が大きく落ち込み、商事事業も第1四半期連結会計期間は概ね計画通り推移したものの、商品仕入れの遅れ等により当第2四半期連結累計期間では伸び悩み、グループ全体の売上高・営業利益も前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,465,105千円（前年同期は3,733,578千円）、経常利益69,808千円（前年同期比30.9%減）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は43,732千円（前年同期比52.6%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、前連結会計年度に「海外事業」を構成しておりました連結子会社の全保有株式を他社へ譲渡したため、第1四半期連結累計期間より「海外事業」を報告セグメントから除外しております。

また、不動産事業を行う子会社として新たに設立した㈱東京衡機不動産を連結の範囲に含めており、量的な重要性が乏しいため報告セグメントに含めず「その他」に区分しております。

①試験機事業

試験機事業では、国内企業の景況感も上向きになりつつあり、設備投資意欲も向上の兆しが見えている中、案件の引き合いとその受注は増加傾向となっております。当第2四半期連結累計期間においては新型コロナウイルス感染症による市場への影響もあり、顧客企業における設備投資の中止や先送りの発生、さらには営業活動や製品の据付工事、修理・メンテナンスサービスに対する制約、価格競争の激化、仕入コストの上昇等の影響を受け、売上高は前年同期並みを維持したものの、営業利益は主にオーダーメイド製品の原価率の悪化等により前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、試験機事業の売上高は1,220,699千円（前年同期は1,236,964千円）、営業利益は153,439千円（前年同期比4.1%減）となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高及び売上原価が734千円減少しております。

②商事事業

商事事業では、インバウンド需要を見込んだ量販店向け商品については、訪日観光客が激減している状況が続いているため前連結会計年度に引き続き回復してはおりませんが、中国を主とする越境ECの需要は拡大傾向にあり、海外向けの商品の販売については、中国政府のゼロコロナ政策による大都市のロックダウンにより影響を受けたものの、品揃えを増やすべく仕入先を開拓するとともに販売業者と連携して販路の拡大を進め、第1四半期連結会計期間は概ね堅調に推移しましたが、当第2四半期連結累計期間では新型コロナウイルスの感染再拡大の影響等により商品仕入に遅れが生じ、計画を下回ることとなりました。

以上の結果、商事事業の売上高は34,446千円（前年同期は1,931,079千円）、営業利益は23,309千円（前年同期比25.7%減）となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高及び売上原価が1,958,136千円減少しております。

③エンジニアリング事業

エンジニアリング事業では、主力のゆるみ止めナット・スプリングについて、引き続き高速道路や橋梁、エネルギー関係等の社会インフラ向けや国内建設市場向けに製品の浸透と市場シェアの拡大に努めた結果、都市開発や公共工事関連で使用するゆるみ止め製品の販売が好調で、売上高は前年同期を上回ることができました。

以上の結果、エンジニアリング事業の売上高は210,086千円（前年同期は183,405千円）、営業利益は40,279千円（前年同期比6.4%減）となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は1,584千円減少し、営業利益は21千円減少しております。

④その他

2022年7月22日開催の当社取締役会の決議に基づき、同年7月28日付で主に不動産事業を行う子会社として(株)東京衡機不動産を設立いたしました。不動産事業の開始には宅地建物取引業免許の取得が必要になるため、同社の営業開始日は当該免許取得日である2022年9月22日となりましたが、当第2四半期連結累計期間においては同社の設立・開業準備費用が発生しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は3,800,869千円となり、前連結会計年度末に比べ599,275千円減少いたしました。

流動資産は2,666,063千円となり、前連結会計年度末に比べ567,055千円減少いたしました。これは主に現金及び預金の減少168,555千円、受取手形及び売掛金の減少317,578千円、電子記録債権の減少91,373千円等によるものであります。

固定資産は1,134,805千円となり、前連結会計年度末に比べ32,219千円減少いたしました。これは主に建物及び構築物の減少5,030千円、工具、器具及び備品の減少7,893千円、繰延税金資産の減少15,065千円等によるものであります。

流動負債は977,787千円となり、前連結会計年度末に比べ528,777千円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金の減少228,714千円、短期借入金の減少241,800千円、1年内返済予定の長期借入金の減少54,711千円等によるものであります。

固定負債は639,439千円となり、前連結会計年度末に比べ114,232千円減少いたしました。これは主に長期借入金の減少69,978千円、退職給付に係る負債の減少36,340千円等によるものであります。

純資産は2,183,642千円となり、前連結会計年度末に比べ43,735千円増加いたしました。これは主に利益剰余金の増加43,732千円等によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ218,333千円減少し、892,100千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローの増加は208,144千円(前年同期は123,919千円の減少)となりました。これは主に売上債権の減少433,475千円、仕入債務の減少△228,714千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローの減少は50,446千円(前年同期は187,365千円の減少)となりました。これは主に定期預金等の預入による支出△50,000千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローの減少は376,031千円(前年同期は297,376千円の増加)となりました。これは主に短期借入れによる収入2,662,800千円、短期借入金の返済による支出△2,904,600千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの2023年2月期の連結業績予想につきましては、2022年7月15日付公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の業績予想から変更ありません。なお、当第2四半期連結累計期間の連結業績予想につきましては、2022年10月13日付公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

また、本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,241,655	1,073,100
受取手形及び売掛金	1,207,494	889,916
電子記録債権	140,305	48,931
商品及び製品	164,091	144,685
仕掛品	327,808	393,844
原材料及び貯蔵品	98,565	106,124
その他	55,687	11,001
貸倒引当金	△2,489	△1,540
流動資産合計	3,233,119	2,666,063
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	94,760	89,729
機械装置及び運搬具（純額）	17,816	15,760
工具、器具及び備品（純額）	39,571	31,677
土地	866,532	866,532
有形固定資産合計	1,018,681	1,003,700
無形固定資産		
ソフトウェア	10,255	8,010
その他	145	145
無形固定資産合計	10,401	8,155
投資その他の資産		
投資有価証券	12,384	12,395
保険積立金	15,953	15,953
繰延税金資産	106,149	91,083
その他	10,566	10,627
貸倒引当金	△7,111	△7,111
投資その他の資産合計	137,942	122,948
固定資産合計	1,167,025	1,134,805
資産合計	4,400,144	3,800,869

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	566,482	337,768
短期借入金	618,800	377,000
1年内返済予定の長期借入金	140,079	85,368
リース債務	18,210	16,586
未払法人税等	11,198	12,702
未払消費税等	11,963	16,676
未払金	39,855	36,237
未払費用	24,907	21,443
前受金	23,374	55
契約負債	-	24,519
賞与引当金	42,587	42,402
その他	9,106	7,026
流動負債合計	1,506,565	977,787
固定負債		
長期借入金	216,714	146,736
リース債務	26,194	18,279
再評価に係る繰延税金負債	152,880	152,880
退職給付に係る負債	356,936	320,595
資産除去債務	946	947
固定負債合計	753,671	639,439
負債合計	2,260,237	1,617,226
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	104,255	104,255
利益剰余金	1,193,128	1,236,860
自己株式	△3,832	△3,836
株主資本合計	1,793,551	1,837,280
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31	38
土地再評価差額金	346,323	346,323
その他の包括利益累計額合計	346,355	346,362
純資産合計	2,139,907	2,183,642
負債純資産合計	4,400,144	3,800,869

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年8月31日)
売上高	3,733,578	1,465,105
売上原価	3,112,391	916,398
売上総利益	621,187	548,706
販売費及び一般管理費	517,556	474,083
営業利益	103,630	74,622
営業外収益		
受取利息及び配当金	435	16
為替差益	1,733	-
助成金収入	-	1,500
その他	7,309	3,083
営業外収益合計	9,478	4,599
営業外費用		
支払利息	11,337	8,397
手形譲渡損	480	458
為替差損	-	557
その他	236	0
営業外費用合計	12,053	9,414
経常利益	101,055	69,808
特別利益		
固定資産売却益	1,446	-
ゴルフ会員権償還益	-	580
特別利益合計	1,446	580
特別損失		
貸倒損失	-	204
特別損失合計	-	204
税金等調整前四半期純利益	102,501	70,183
法人税、住民税及び事業税	6,230	11,389
法人税等調整額	3,946	15,062
法人税等合計	10,177	26,451
四半期純利益	92,324	43,732
親会社株主に帰属する四半期純利益	92,324	43,732

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
四半期純利益	92,324	43,732
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△13	7
為替換算調整勘定	△567	-
その他の包括利益合計	△580	7
四半期包括利益	91,743	43,739
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	91,743	43,739

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	102,501	70,183
減価償却費	29,070	18,182
賞与引当金の増減額 (△は減少)	380	△184
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	2,740	△53,256
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△7,995	△948
受取利息及び受取配当金	△435	△16
助成金収入	-	△1,500
支払利息	11,817	8,856
為替差損益 (△は益)	△1,733	557
固定資産売却損益 (△は益)	△1,446	-
売上債権の増減額 (△は増加)	155,564	433,475
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△110,228	△54,188
仕入債務の増減額 (△は減少)	△166,636	△228,714
未払又は未収消費税等の増減額	△52,074	20,574
その他	△42,305	△9,823
小計	△80,779	203,198
利息及び配当金の受取額	435	16
助成金の受取額	-	1,500
利息の支払額	△12,897	△8,552
法人税等の支払額	△32,637	△11,907
法人税等の還付額	1,959	23,889
営業活動によるキャッシュ・フロー	△123,919	208,144
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金等の預入による支出	△64,500	△50,000
ゴルフ会員権の償還による収入	-	580
有形固定資産の取得による支出	△123,697	△956
有形固定資産の売却による収入	1,446	-
その他	△614	△70
投資活動によるキャッシュ・フロー	△187,365	△50,446
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	2,689,600	2,662,800
短期借入金の返済による支出	△2,268,935	△2,904,600
長期借入れによる収入	50,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△163,122	△224,689
リース債務の返済による支出	△10,166	△9,538
自己株式の取得による支出	-	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	297,376	△376,031
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,147	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△12,761	△218,333
現金及び現金同等物の期首残高	886,084	1,110,433
現金及び現金同等物の四半期末残高	873,322	892,100

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動に関する事項

当社は、2021年5月27日開催の第115回定時株主総会の決議に基づき、2021年7月1日付で資本金2,213,552千円及び資本準備金95,977千円を減少し、その他資本剰余金に振り替えております。また、同日付でその他資本剰余金2,309,529千円を減少し、繰越利益剰余金に振り替え、欠損填補に充当しております。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が500,000千円、資本剰余金が104,255千円、利益剰余金が1,163,942千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第2四半期連結会計期間において、(株)東京衡機不動産を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)および「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)(以下「収益認識会計基準等」という。)を第1四半期連結会計期間の期首より適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスとして交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしています。

この適用により、顧客への商品の提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識していましたが、顧客から受け取る額から商品の仕入れ先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。また、従来は販管費及び一般管理費に計上しておりました販売奨励金及び営業外費用に計上しておりました売上割引については、関連する財又はサービスの移転に対する収益を認識する時点で売上高から減額することとし、発生することが見込まれる売上割引については、「返金負債」に計上し、流動負債の「その他」に含めて表示することといたしました。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品及び製品の国内販売において、出荷時から顧客への商品及び製品移転時までの期間が通常の間である場合は、出荷時点で収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用していません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,960,455千円減少しましたが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益金額に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「前受金」は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

（追加情報）

（連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用）

当社及び国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 2021年3月1日 至 2021年8月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	試験機事業	商事事業	エンジニア リング事業	海外事業	計				
売上高									
(1)外部顧客に 対する売上高	1,236,964	1,931,079	183,405	378,121	3,729,571	4,007	3,733,578	—	3,733,578
(2)セグメント間 の内部売上高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,236,964	1,931,079	183,405	378,121	3,729,571	4,007	3,733,578	—	3,733,578
セグメント利益	159,918	31,353	43,053	15,299	249,624	21	249,646	△146,015	103,630

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等であります。

2. セグメント利益の調整額△146,015千円は、当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	試験機事業	商事事業	エンジニア リング事業	計				
売上高								
(1)外部顧客に 対する売上高	1,220,620	34,446	210,037	1,465,105	—	1,465,105	—	1,465,105
(2)セグメント間 の内部売上高	78	—	48	127	—	127	△127	—
計	1,220,699	34,446	210,086	1,465,232	—	1,465,232	△127	1,465,105
セグメント利益 又は損失 (△)	153,439	23,309	40,279	217,028	△812	216,215	△141,592	74,622

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△141,592千円は、当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

「(4)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首より収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理の方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、試験機事業におきましては、外部顧客への売上高は734千円減少しておりますが、売上原価も同額減少しているためセグメント利益に与える影響はありません。商事事業におきましては、全ての取引の形態が代理人に該当すると判断し純額で収益を認識する方法に変更したため、外部顧客への売上高は1,958,136千円減少しておりますが、売上原価も同額減少しているためセグメント利益に与える影響はありません。エンジニアリング事業におきましては、外部顧客への売上高は1,584千円減少しておりますが、セグメント利益に与える影響は軽微であります。

また、前連結会計年度におきまして、「海外事業」ならびに「その他」に区分しておりました報告セグメントに含まれない不動産賃貸事業につきまして、「海外事業」を構成しておりました連結子会社の全保有株式を2022年2月21日付で他社へ譲渡し、「不動産賃貸事業」を構成しておりました新潟県長岡市所在の工場及び土地を2021年11月25日付で売却いたしました。これに伴い、それぞれの事業を第1四半期連結累計期間より報告セグメントから除外しております。

なお、当第2四半期連結会計期間より、主に不動産事業を行う子会社として新たに設立した㈱東京衡機不動産を連結の範囲に含めております。同社の事業は、量的な重要性が乏しいため報告セグメントに含めず「その他」に記載しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計
	試験機事業	商事事業	エンジニアリング事業		
試験機製品	785,034	—	—	—	785,034
試験機修理	401,741	—	—	—	401,741
その他の試験機	33,844	—	—	—	33,844
商事取引	—	34,446	—	—	34,446
締結部材	—	—	210,037	—	210,037
その他	—	—	—	—	—
顧客との契約から生じる収益	1,220,620	34,446	210,037	—	1,465,105
外部顧客への売上高	1,220,620	34,446	210,037	—	1,465,105

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。